

口腔粘膜所見


- 麻疹
 - コプリック斑。発疹出現の前日から出現。頬粘膜は全体に発赤し、白い点々が無数に認められる。
- 風疹
 - フォルチハイマー斑。軟口蓋から硬口蓋にかけての点状出血。
- 突発性発疹
 - 永山斑。病初期に口蓋垂の根元の両側に認められる粟粒大の紅色隆起。
- 手足口病
 - 口腔粘膜と舌の小水疱。
 - 手足の発疹は水疱性丘疹。
- ヘルパンギーナ
 - 口蓋咽頭部に小水疱。通常5~6個だが、時に10個以上みられる。
- ヘルペス口内炎
 - 口蓋、頬粘膜、舌、口唇に小水疱。歯肉炎も伴い、容易に出血する。
- 咽頭結膜熱(プール熱)
 - 咽頭炎と結膜炎。迅速抗原検査(アデノチェック®など)。
- 溶連菌性咽頭炎
 - 咽頭発赤、いちご舌。迅速抗原検査(STREP A®など)。

感染症の迅速検査キット

- 溶連菌、インフルエンザウイルス、RSウイルス、アデノウイルスなどの迅速診断キットが小児科外来でよく使用される。
- その他、ノロウイルス、ロタウイルス、肺炎球菌、マイコプラズマ、レジオネラなどの迅速診断キットもある。

- ウイルス感染症で抗ウイルス薬を使用するのは、インフルエンザと水痘(水痘帯状疱疹ウイルス; VZV)くらいで、あとは対症療法。
- ただ、単純疱疹(単純ヘルペス)、ヘルペス口内炎の重症例はアシクロビル、バラシクロビルを使用することがある。
- また、小児でも稀に帯状疱疹がある。

- RS、アデノ、ノロ、ロタは、診断が得られても対症療法となる。診断しても治療に結びつかない検査は、あまり重要でない。
- 溶連菌、インフルエンザウイルスの迅速診断は、すぐに治療が開始できるので、有用かつ重要。
- 肺炎球菌、マイコプラズマ、レジオネラも、有用性が高い。ただ、間雲に迅速検査をすればよいわけではない。



2回以上罹患

- ヘルパンギーナ
 - コクサッキーA群やB群、エコーウイルスなどで生じるので、繰り返しかかる。
- 手足口病
 - コクサッキーA16とエンテロ71の2回かかることがある。
 - 上記以外のタイプもある。
- 突発性発疹
 - ヒトヘルペスウイルス6と7の2回かかることがある。

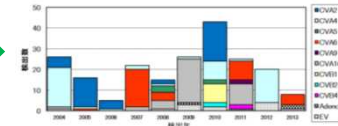


図5 年別ヘルパンギーナ検体検出ウイルス
2013年はC336が多く検出された。C336は、2007~8年ならびに2011年に多く検出されている。

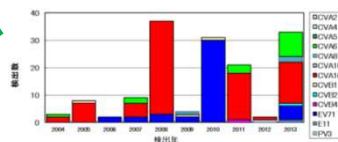


図6 年別手足口病検体検出ウイルス
2013年はC336およびC7、C16、E71が多く検出された。C336は2007ならびに2011年に、C7は2009ならびに2011年に、E71は2010年に多く検出されている。

鳥取県感染症情報センターのホームページより

小児に抗菌薬を処方する場合

- 小児の感染症の大半はウイルス感染症なので、抗菌薬は細菌感染症が疑われるものだけに絞りたい。細菌かウイルスかを鑑別するのは難しいが、患者一人一人に、**抗菌薬が必要かどうか**を考える。
- 成人の感染症と同様、ペニシリン系、セフェム系、カルバペネム系、マクロライド系、ニューキノロン系、ホスホマイシン系、テトラサイクリン系は意識して**使い分ける**こと。